

第24回獣医学特別セミナー

がん免疫治療新時代に向けて

2015年 3月17日 (火)

16:30-18:00

連獣4階大講義室

講師：垣見和宏 特任教授

(東京大学医学部附属病院 免疫細胞治療学講座)

がん抗原を標的とした従来のがん免疫治療の臨床効果は限定的であったが、免疫チェックポイント分子阻害剤と呼ばれる抗体治療によって、腫瘍が誘導する免疫抑制を解除することで内因性の免疫が活性化され、抗腫瘍効果が現れることがわかってきた。これらは過剰な炎症や自己免疫などを抑えるために必要な生体反応だが、がん免疫治療にとっては妨げとなっていた。免疫抑制環境を解除することでがん抗原に対する免疫応答を活性化させる、すなわち、がん本体ではなく、がん周辺的环境因子や免疫システムも治療の重要な標的になるという一種のパラダイムシフトである。同時に、個々の患者において、がん細胞に生じた変異遺伝子でコードされ、発現したタンパク質が強い免疫原性をもち、拒絶抗原として腫瘍免疫の標的となることが明らかとなってきた。今後は免疫抑制解除と、個人の遺伝子変異をターゲットとしたオーダーメイド免疫治療が発展すると期待される。

★ 教員・学生の積極的な参加をお願いします！ ★

連絡先：水野拓也 (5894)
加納 聖 (5883)
清水 隆 (5895)

共同獣医学部

